



標的型攻撃メール対応訓練実施キット Webサーバ側プログラムの設定

aptkit.aspxとIISの設定

標的型メール訓練を実施されるにあたり、以下のケースとなる場合は、Webサーバ経由で開封者情報を取得することになるため、Webサーバの用意と、Webサーバ側プログラムの設定が必要になります。

- ①Word文書添付ファイル型の訓練を実施するケース
- ②URLリンククリック型の訓練を実施するケース
- ③Exe実行ファイル添付型の訓練で、開封者情報のメールを訓練実施対象者（添付ファイル開封者）のPC上から送付する代わりに、Webサーバ経由で送付する運用とするケース

【設定手順】

• Webサーバを用意します。

Webサーバといっても、特別にハードウェアを用意する必要はありません。今お使いのWindows7パソコンが1台あれば十分に訓練を実施することができます。もちろん、既にWebサーバをお持ちなら、そちらをご利用いただいてもよいです。

Windowsパソコンをお使いになる場合は、IISというWebサーバソフトが標準で使えるようになっていますので、IISと、キットに付属のaptkit.aspxの組み合わせをお使い頂くのが、最も簡便です。

なお、Windowsパソコンを使わず、レンタルサーバなどを利用してWebサーバを用意される場合、Windows Azureなど、ASP.NETが使えるWebサーバであれば、aptkit.aspxをお使い頂くことができますが、Apacheを使用したWebサーバなど、ASP.NETが使えないWebサーバをご利用である場合は、aptkit.aspxの代わりに、aptkit.phpをご利用いただくことになります。

ちなみに、ASP.NET並びに、PHPのどちらも使うことができないWebサーバである場合は、キットではご利用いただけませんので、この場合は、お手持ちのパソコンを利用されるなど、別のWebサーバをご用意ください。

- Webサーバにプログラムを設置します。
- Webサーバ経由で開封者情報を取得できるようにします。

Webサーバ（IIS）を用意する

ここでは、お手持ちのパソコン（Windows7以降のWindowsパソコン）にIISをインストールする手順について説明します。
と言っても、難しくはありません。マウスで操作していただくだけです、作業はすぐに終わります。

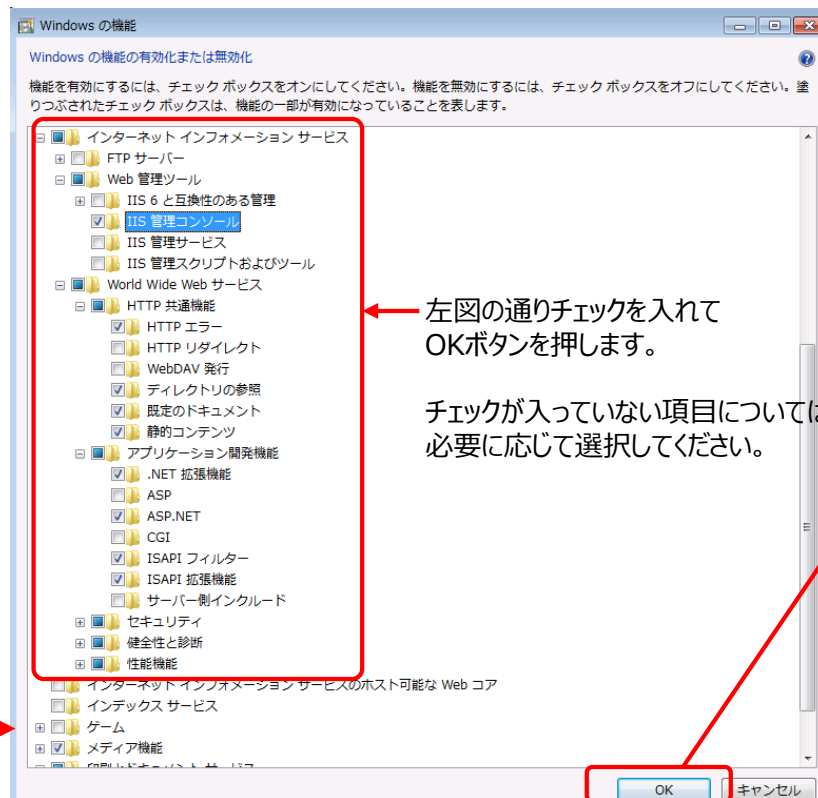
- ①コントロールパネルから「プログラムと機能」を選択します。



- ②「Windowsの機能の有効化または無効化」を選択します。



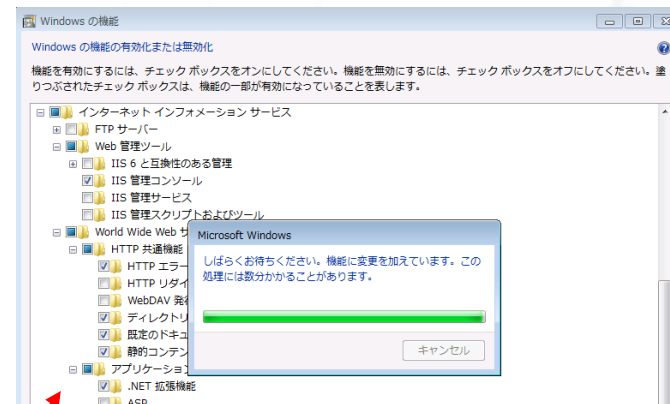
- ③インターネットインフォメーションサービスに関する項目を選択してOKボタンを押します。



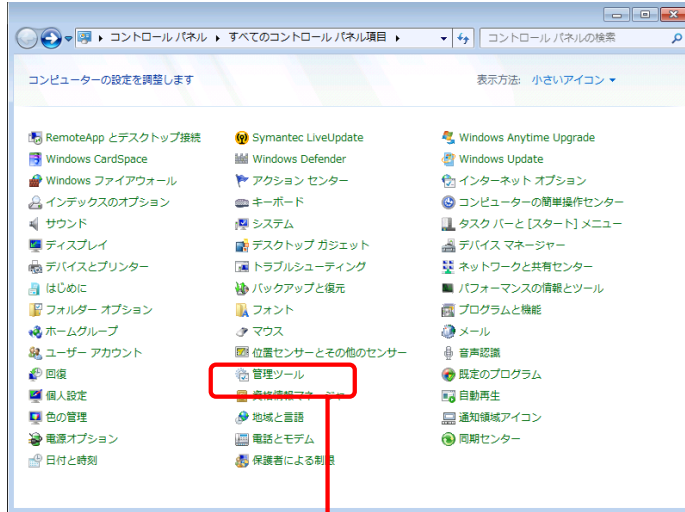
左図の通りチェックを入れてOKボタンを押します。

チェックが入っていない項目については、必要に応じて選択してください。

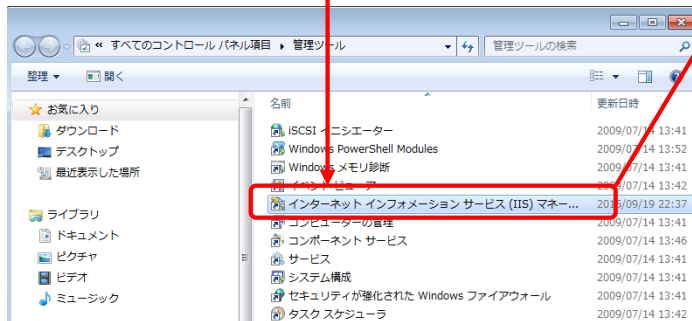
- ④OKボタンを押すとIISがインストールされます。
※マシンの性能によってインストールにかかる時間は異なります。



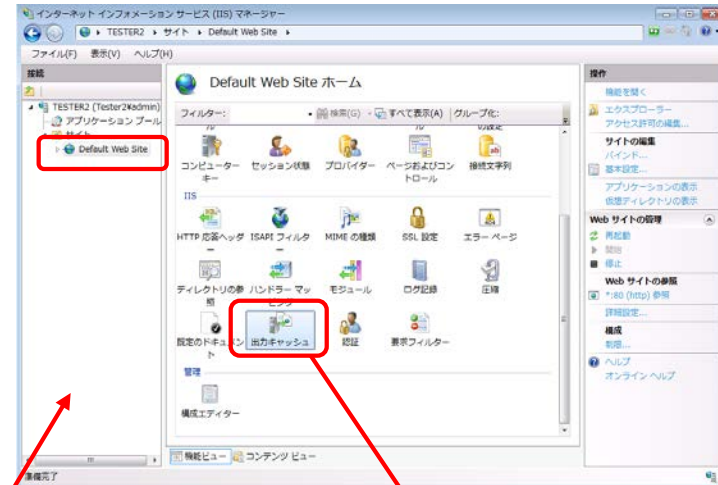
⑤ IISのインストールが完了したら、コントロールパネルから「管理ツール」を選択します。



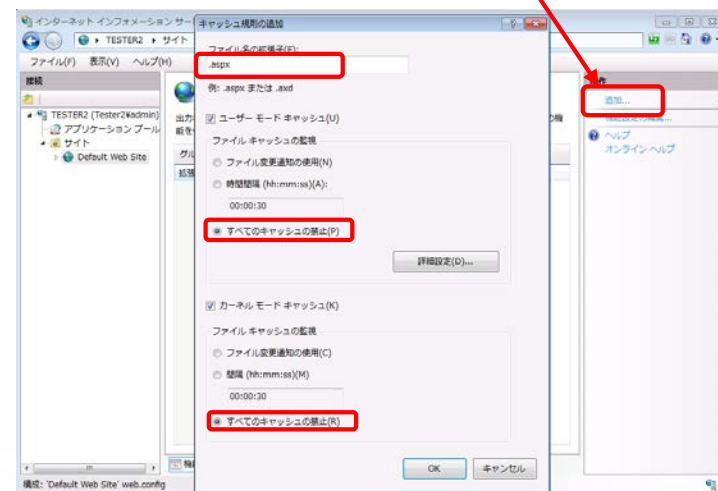
⑥ 管理ツールの一覧の中から「IISマネージャー」を選択します。



⑦ 「IISマネージャー」の管理コンソール画面が表示されますので、「Default Web Site」を選択し、「出力キャッシュ」を選択します。



⑧ 「出力キャッシュ」の設定画面で「追加」をクリックすると、「キャッシュ規則の追加」ダイアログが表示されますので、ファイル名の拡張子に「.aspx」とに入力し、ユーザーモードキャッシュ、カーネルモードキャッシュのどちらも、「すべてのキャッシュ」の禁止を選択してOKボタンを押します。



⑨ 出力キャッシュが以下のように追加されます。



⑩ 出力キャッシュの設定まで終われば、IISの設定は完了です。IISが正しく設定されているかを確認するため、Webブラウザを起動し、<http://localhost/>にアクセスしてみてください。

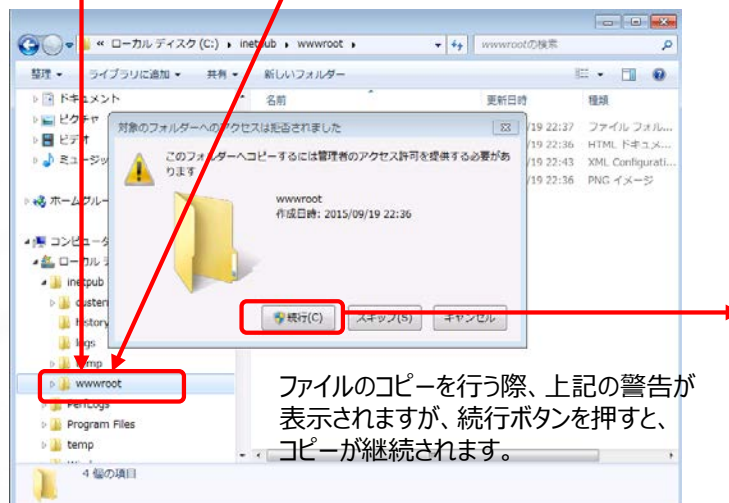
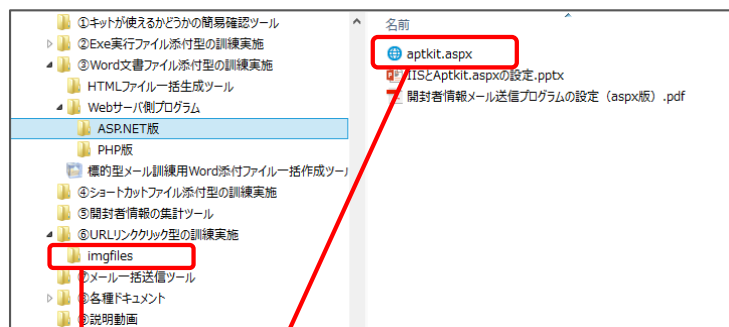
IIS7であれば、以下の画面が表示されるはずですが。



以上でIISの設定は完了です。
続いて、aptpkit.aspxの設定を行います。

Aptkit.aspxを設定する

①キットに付属の「Webサーバ側プログラム」のフォルダ配下にある aptkit.aspxと、「URLリンククリック型の訓練実施」フォルダ配下にある、attention.htmlとimgfilesフォルダを、IISのルートフォルダである、C:\inetpub\wwwroot配下にコピーします。

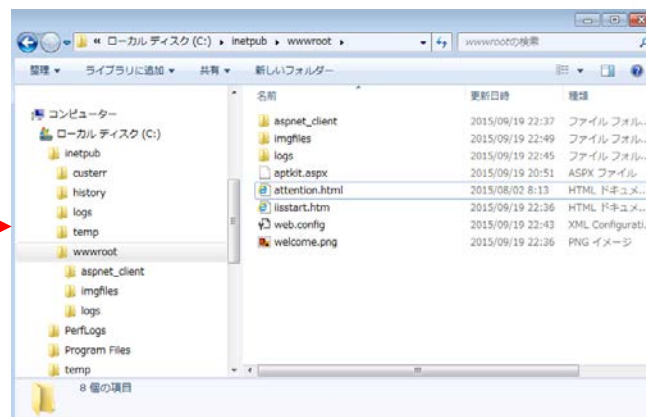


ファイルのコピーを行う際、上記の警告が表示されますが、続行ボタンを押すと、コピーが継続されます。

③②まで完了したら、Webブラウザを起動し、<http://localhost/attention.html>にアクセスします。設定に問題がなければ、以下のような画面が表示されるはずです。

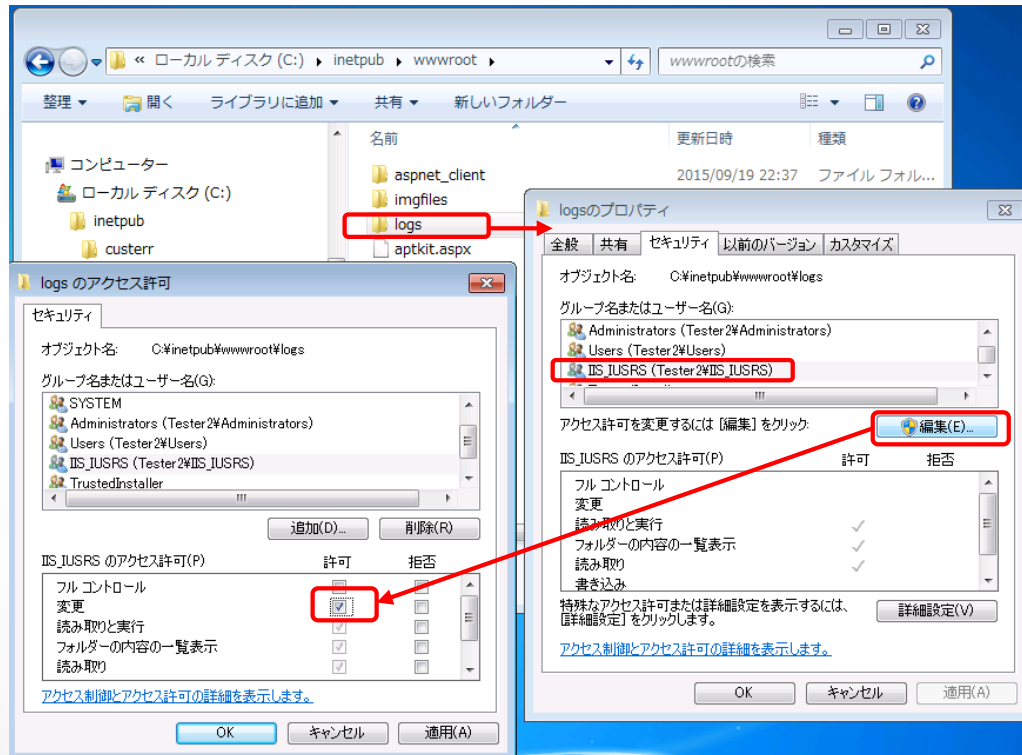


②ファイルのコピーが完了すると、以下のようにになっているはずです。

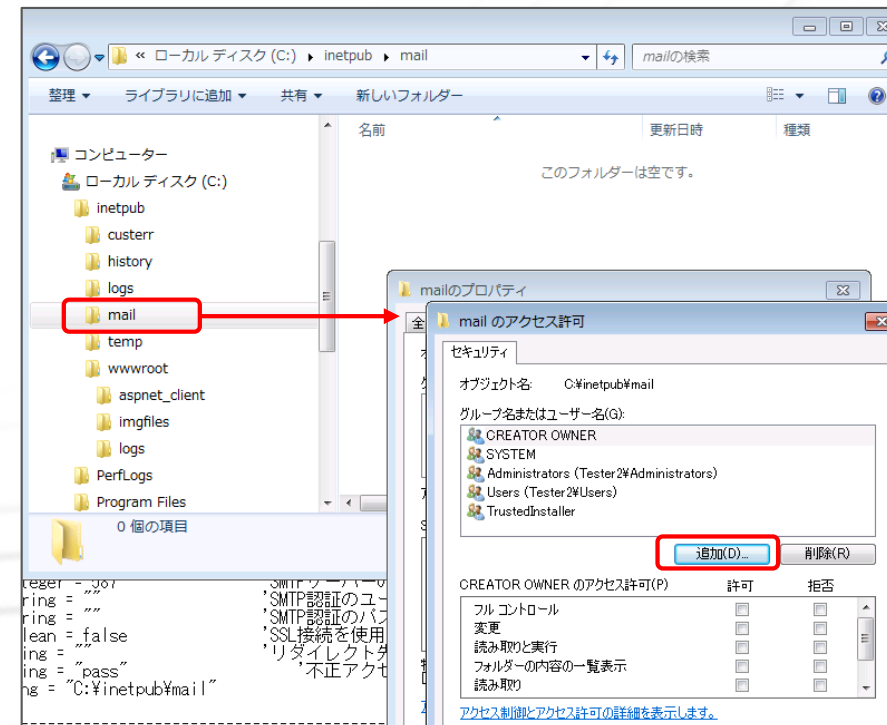


ログ記録用フォルダとメール保存用フォルダを設定する

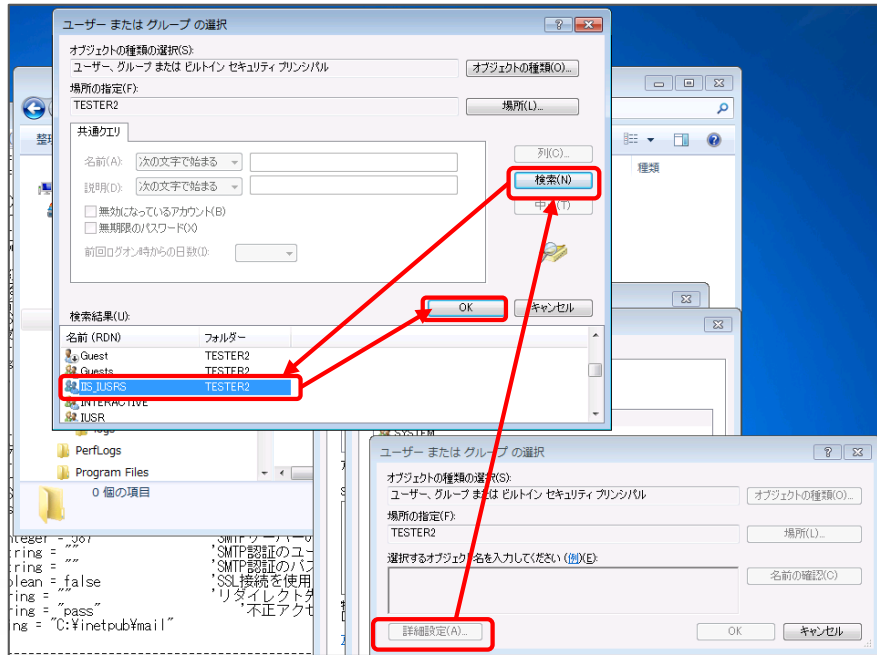
④ ③の確認まで完了したら、c:\inetpub\wwwrootフォルダ配下に「logs」ディレクトリを作成し、フォルダのプロパティ設定ダイアログ画面を表示させて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。



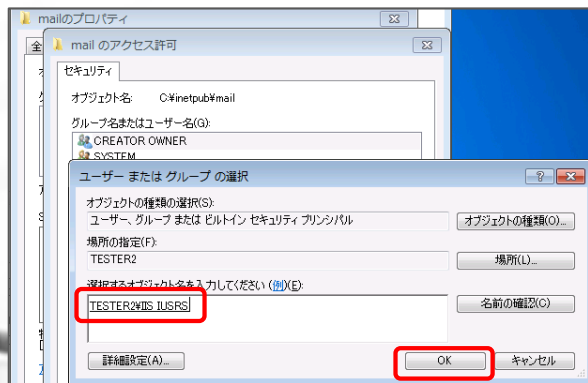
⑤ ④と同様にして、c:\inetpubフォルダ配下に「mail」ディレクトリを作成し、フォルダのプロパティ設定ダイアログ画面を表示させて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。但し、mailディレクトリを作成した段階では、IIS_IUSRSにフォルダへのアクセス権限が付与されていないため、IIS_IUSRSの追加を行います。



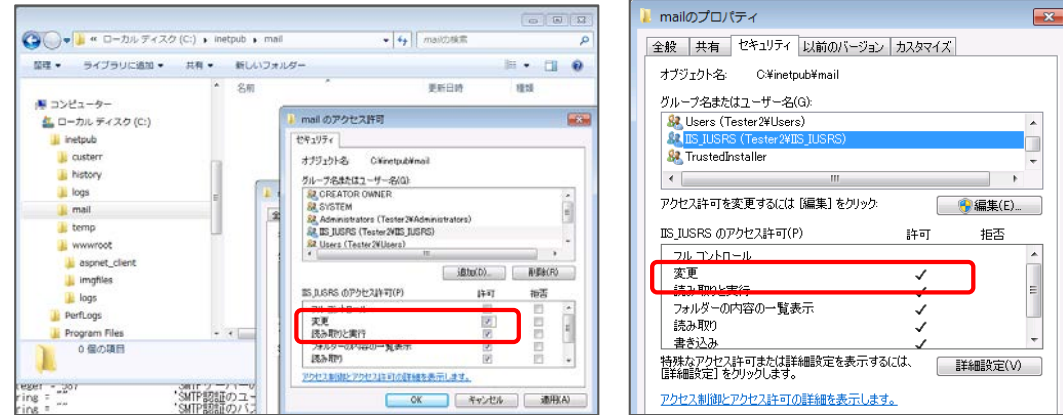
⑥ IIS_IUSRSをフォルダにアクセス可能なユーザーとして追加するには、「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログで「詳細設定」ボタンを押し、「検索」ボタンを押します。すると、検索結果の一覧にIIS_IUSRSが表示されるので、これを選択してOKボタンを押します。



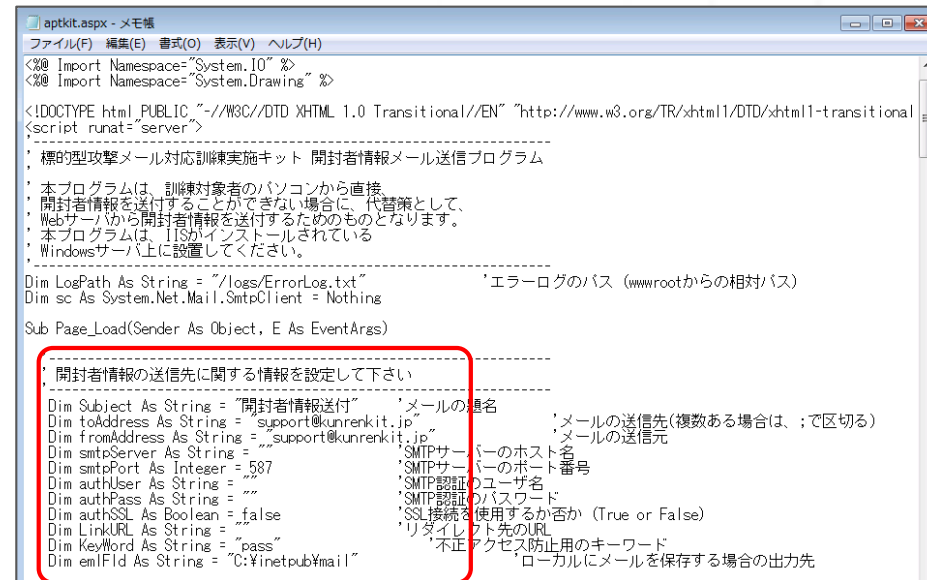
⑦ 以下のように、IIS_IUSRSがダイアログに追加されたら、OKボタンを押します。



⑧ ④と同様の手順で、mailフォルダについて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。



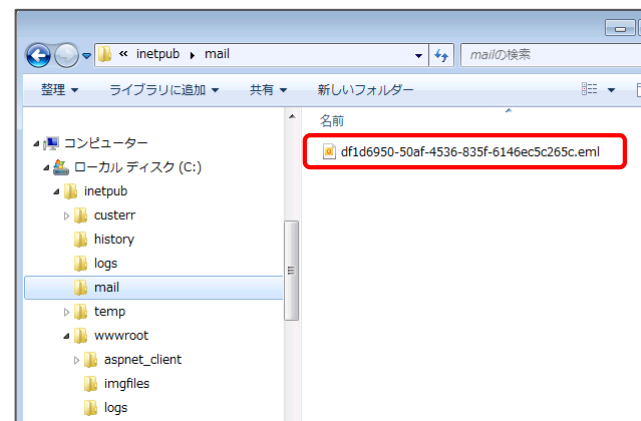
⑨ aptkit.aspxをメモ帳などのテキストエディタで開き、以下の記述となっていることを確認します。



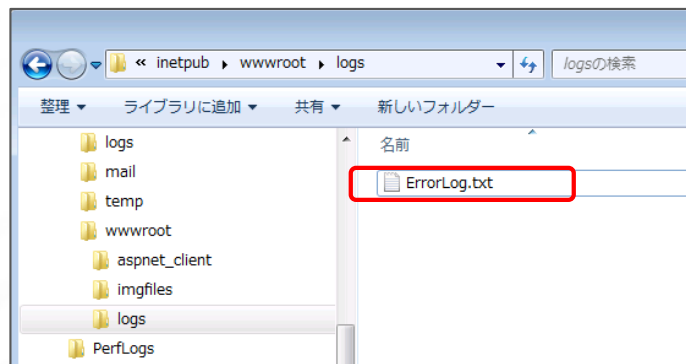
⑩ Webブラウザを起動し、<http://localhost/aptkit.aspx?apps=test&kwd=test> にアクセスします。すると、以下のような画面が表示されるはずです。



⑪ 「c:\inetpub\mail」フォルダ配下に、拡張子が.emlのファイルが出力されていることを確認します。



⑫ 「c:\inetpub\wwwroot\logs」フォルダ配下に、ErrorLog.txtが出力されていることを確認します。




※ 拡張子が.emlのファイルは、eml形式で保存された開封者情報のメールになります。このemlファイルは、キットに付属の「emlファイル取り込みツール」を使って、同じくキットに付属の「開封者情報集計ツール」に取り込みが可能なデータに変換することで、訓練メールに添付したWord文書ファイルを開いたり、メール本文中のURLをクリックしたユーザが誰であるか？を集計することができます。

以上までの確認が無事完了すると、aptkit.aspxの基本的な設定は完了となります。開封者情報のメールをemlファイルとしてサーバ上に保管する形式であれば、この状態で標的型メール訓練を実施することができますが、開封者情報のメールが指定のアドレス宛に届くようにするには、引き続き、次ページ以降に示す設定を行ってください。

開封者情報のメールを指定の宛先に送信するよう設定する

aptkit.aspxでは、SMTPサーバーを利用して、開封者情報のメールを指定のアドレス宛に送信することができます。
開封者情報のメールが指定のアドレス宛に届くようにするには、aptkit.aspxにおいて、以下の設定を行います。



```
Dim LogPath As String = "/logs/ErrorLog.txt" 'エラーログのパス (wwwrootからの相対パス)
Dim sc As System.Net.Mail.SmtpClient = Nothing

Sub Page_Load(Sender As Object, E As EventArgs)
    ' 開封者情報の送信先に関する情報を設定して下さい
    Dim Subject As String = "開封者情報送付" 'メールの題名
    Dim toAddress As String = "support@kunrenkit.jp" 'メールの送信先(複数ある場合は、;で区切る)
    Dim fromAddress As String = "support@kunrenkit.jp" 'メールの送信元
    Dim smtpServer As String = "smtp.kunrenkit.jp" 'SMTPサーバーのホスト名
    Dim smtpPort As Integer = 587 'SMTPサーバーのポート番号
    Dim authUser As String = "support@kunrenkit.jp" 'SMTP認証のユーザー名
    Dim authPass As String = "xxxxxxx" 'SMTP認証のパスワード
    Dim authSSL As Boolean = false 'SSL接続を使用するか否か (True or False)
    Dim LinkURL As String = "/attention.html" 'リダイレクト先のURL
    Dim Keyword As String = "pass" '不正アクセス防止用のキーワード
    Dim emlFld As String = "C:\inetpub\mail" 'ローカルにメールを保存する場合の出力先
```

この部分の設定を変更します。
設定する情報については、メールソフトで設定している情報と同じものを指定します。

なお、wwwroot配下のファイルについては、デフォルトでは直接編集して保存することができないようになっていますので、編集したaptkit.aspxについては別のフォルダに保存し、ファイルエクスプローラーでwwwrootフォルダ配下のaptkit.aspxに上書きコピーします。

Subject	開封者情報のメールの題名を設定します。変更する必要がなければデフォルトのままで結構です。
toAddress	開封者情報メールの送信先となるメールアドレスを設定します。複数の宛先に送付する場合はアドレスをセミicolon「;」で区切ってください。
fromAddress	開封者情報メールの送信元となるメールアドレスを設定します。
smtpServer	メール送信に使用するSMTPサーバーのホスト名を設定します。
smtpPort	メール送信に使用するSMTPサーバーのポート番号（25、465、587など）を設定します。
authUser	メール送信にSMTP-AUTHが必要となる場合は、SMTP-AUTHに使用するUser名を設定します。
authPass	authUserで設定したUser名に対するパスワードを設定します。
authSSL	メール送信にSSL接続が必要である場合は「True」にします。メール送信に失敗する場合は、この設定を変えてみて下さい。

開封者情報メールの送信確認方法

Webブラウザを起動し、<http://localhost/aptkit.aspx?apps=test&kwd=test> にアクセスします。すると、c:\inetpub\mailフォルダ配下にemlファイルが作成される代わりに、開封者情報のメールが、指定した宛先に届くはずですが、



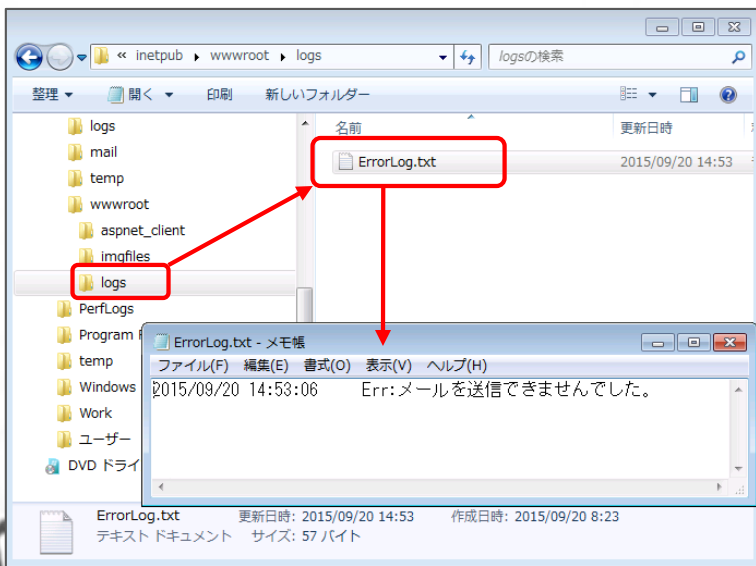
もしメールが届かない場合は、c:\inetpub\wwwroot\logs\ErrorLog.txtにエラーが出力されているかどうかを確認してください。

【よくある間違い】

- authSSLの設定で、「true」とすべきところを「false」に設定している。（もしくはこの逆）
- smtpPortに設定すべきポート番号を間違えている。（587と指定すべきところを25に設定しているなど）
- SMTPサーバ側で、外部アプリケーションからのメール送信を許可する設定をしていない。（Gmailを使う場合など）
- fromAddressに、SMTPサーバ側では受け入れできないアドレスを設定している。
- SMTP-AUTHの設定（authUser、authPass）を間違えている。

※開封者情報メールの送信がどうしてもうまくいかない場合は、まず、aptkit.aspxを設置しているPC上で、OutLookやThunderbirdなどの通常のメールソフトを使って、メール送信が正しくできることを確認してください。

通常のメールソフトでのメール送信が正しく行えるのであれば、メールソフトの設定画面で設定した内容と同じ情報をaptkit.aspxに設定すれば、メール送信が行えるはずです。



Aptkit.aspxの使い分けについて

aptkit.aspxでは、以下の3つの用途に対応しています。それぞれの使い分けは、URLに設定する第一パラメータによって行います。なお、URLの第二パラメータに指定するkwd=passについては、いずれのパターンでも共通の設定となります。passの部分は、aptkit.aspxのKeyWordで設定した文字列と同じ文字列を設定します。

また、以下において、xxxxの部分は任意の文字列を指定できます。このxxxxの部分が、開封者を特定するキー情報となります。URLエンコードした文字列を使えば、日本語などの2バイト文字を指定することもできますが、英数文字を使うのが無難です。

```
-----
* 開封者情報の送信先に関する情報を設定して下さい
Dim Subject As String = "開封者情報送付"
Dim toAddress As String = "support@kunrenkit.jp"
Dim fromAddress As String = "support@kunrenkit.jp"
Dim smtpServer As String = "smtp.kunrenkit.jp"
Dim smtpPort As Integer = 587
Dim authUser As String = "support@kunrenkit.jp"
Dim authPass As String = "xxxxxxxx"
Dim authSSL As Boolean = false
Dim LinkURL As String = "attention.html"
Dim KeyWord As String = "pass"
Dim emlFld As String = "bodytextpubymail"

'メールの題名
'メールの送信先(複数ある場合は、;で区切る)
'メールの送信元
'SMTPサーバーのホスト名
'SMTPサーバーのポート番号
'SMTP認証のユーザー名
'SMTP認証のパスワード
'SSL接続を使用するか否か (True or False)
'リダイレクト先のURL
'不正アクセス防止用のキーワード
'ローカルにメールを保存する場合の出力先
```

① Word文書添付ファイル型の訓練を実施するケース

Word文書ファイル添付型では、Webビーコン画像を返すこととなりますので、Webビーコン画像を返却するには、以下の形式のURLを用います。

`http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?apps=xxxx&kwd=pass`

※第一パラメータに「apps」と指定すると、1×1ドットのpng画像が返却されます。

② URLリンククリック型の訓練を実施するケース

URLリンククリック型では、リンクをクリックした先のページやファイル（zipファイルなど）を返却する（リダイレクトする）こととなりますので、以下の形式のURLを用いると共に、aptkit.aspxにおいて、LinkURLにリンク先となるURLを設定します。

`http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kwd=pass`

※第一パラメータに「apps」もしくは「data」以外の文字列、例えば「user=」や「ret=」などを使用すると、LinkURLに設定したURLにリダイレクトされます。

③ Exe実行ファイル添付型の訓練で、開封者情報のメールを訓練実施対象者（添付ファイル開封者）のPC上から送付する代わりに、Webサーバ経由で送付する運用とするケース

キットに付属の模擬マルウェアプログラム（exe実行ファイル）では、Webサーバ経由で開封者情報のメールを送信することができます。この場合のURLは、既に模擬マルウェアプログラム側に組み込まれているため、意識する必要はありませんが、参考情報として、以下の形式のURLを使用すると、空のページが返却されます。

`http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?data=xxxx&kwd=pass`

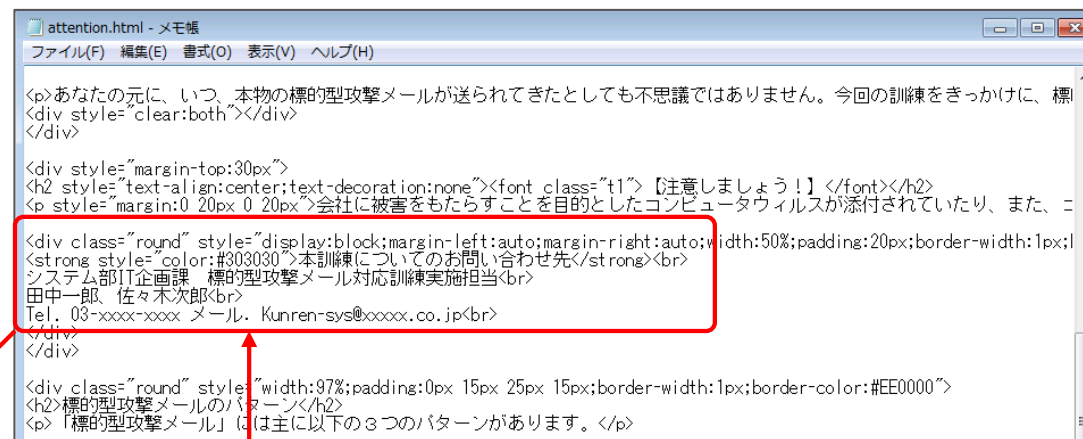
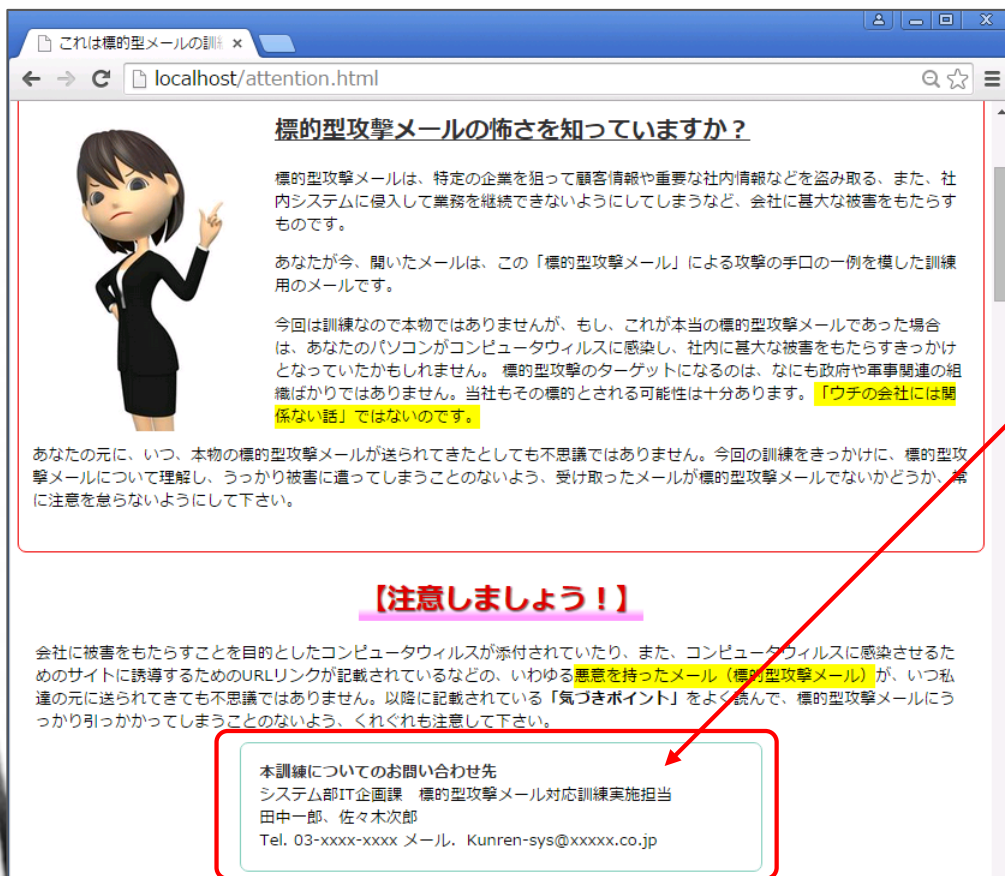
※第一パラメータに「data」と指定すると、空のHTMLファイルが返却されます。

※URLが`http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx` だけで、第一パラメータと第二パラメータの設定がない場合はビーコン画像のみ返却され、メールの送信は行われません。

Attention.htmlについて

URLリンククリック型の訓練では、URLリンクをクリックした際に表示するWebページや、ダウンロードファイルが必要になりますが、これを全く何もない状態から用意するのは面倒です。そこでキットでは、URLリンクがクリックされた際に表示するWebページ画面として、標的型メールに関する教育用のコンテンツの雛形（attention.html）をご提供しています。

雛形では、訓練についての問い合わせ先を記載する箇所を設けてありますので、attention.htmlを利用される際は、メモ帳やHTMLエディタなどを使って、問い合わせ先の部分を適宜修正した上でご利用ください。なお、attention.htmlの内容については、自由に改編してご利用いただけます。但し、著作権フリーではありませんので、ご利用いただける範囲は、貴社内でのご利用に限定されますことをご留意ください。



メモ帳やHTMLエディタなどでこの部分を適宜書き換えます。

他のパソコンからWebサーバへのアクセスについて

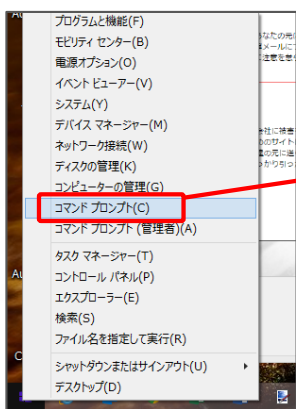
前ページまでの設定については、Webサーバを設定したパソコン上での作業を想定しているため、URLを「http://localhost/aptkit.aspx?～」としましたが、実際の訓練では、他のパソコンからWebサーバにアクセスが発生することになるため、「http://localhost/aptkit.aspx?～」は使うことができません。

このため、他のパソコンからWebサーバにアクセスするには、IPアドレスでアクセスさせるか、DNSやWINSによって、ホスト名でWebサーバにアクセスすることができるようにしている場合は、ホスト名でアクセスさせるようにします。

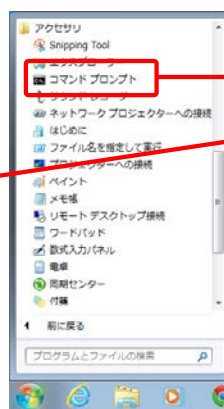
なお、Webサーバを設定したパソコンのIPアドレスがわからない場合には、以下の手順で調べることができます。

①コマンドプロンプトを起動します。

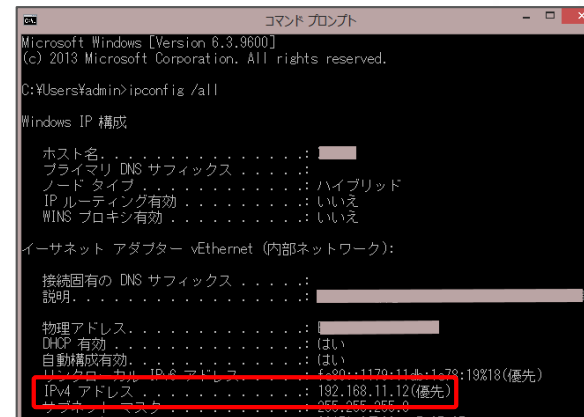
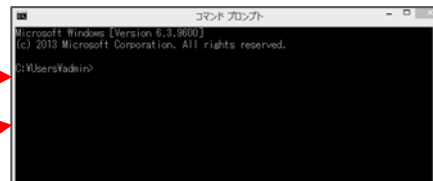
②ipconfig とタイプしてリターンキーを押します。



↑ Windows8.1以降



↑ Windows7



↑ 上記赤枠部分が、割り当てられているIPアドレスになります。

ちなみに、通常の業務でお使いのパソコンをWebサーバとして使用する場合、お使いのパソコンのIPアドレスが、DHCPによって動的に割り当てられているケースが多いと思います。パソコンの電源を入れたことで、パソコンに割り当てられるIPアドレスが変わってしまうと、訓練実施前はWebサーバにアクセスできたのに、訓練を実施したらWebサーバにアクセスができなくなりました。ということが起こりえますので、DHCPによって動的にIPアドレスが割り当てられるパソコンをWebサーバとしてお使いになられる場合は、この点にご留意ください。

Word文書ファイル添付型の訓練実施方法

Word文書ファイル添付型の訓練を実施するには、「http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?apps=xxxx&kwd=pass」形式のURLを設定したWebビーコン画像を埋め込んだWord文書ファイルを、訓練実施対象者毎に作成し、これを訓練メールに添付する形で実施します。

① 訓練メールに添付するWord文書ファイルの作成

Webビーコン画像を埋め込んだWord文書ファイルの作成には、キットに付属の「Word添付ファイル一括作成ツール」を用います。このツールを使うことで、apps=xxxxのxxxxの部分を変えたWord文書ファイルを一括して作成することができます。

WebビーコンイメージファイルのURL: `http://hoge.co.jp/aptkit.aspx`

訓練用Word文書ファイルの保存先フォルダ: `C:\temp\WordTest`

訓練用Word文書ファイルの保存形式: `Word2010以降の形式 (.docx)`

リクエストを許可する秘密の合言葉: `*****`

訓練用Wordファイルを一括作成する

http://webサーバのアドレス/aptkit.aspxをWebビーコンイメージファイルのURLとして設定します。

ツールが生成するWord文書ファイルの保存先は以下のようになります。

`C:\temp\wordtest\test01.docx`

Keyword: `apps=xxxx`

Keywordの値を秘密の合言葉として設定します。

訓練対象ユーザ名	特定用キーワード	作成したWordファイルの保存先ファイル名
テスト01	user01	test01
テスト02	user02	test02
テスト03	user03	test03
テスト04	user04	test04
テスト05	user05	test05
テスト06	user06	test06
テスト07	user07	test07
テスト08	user08	test08

apps=xxxxのxxxxの部分に設定する値を記載します。ここで設定したキーワードが個々のWord文書ファイルに埋め込まれます。

※ Word文書ファイル一括作成時の注意事項

Webビーコンを埋め込んだWord文書ファイルの作成時には、aptkit.aspxへのアクセスが発生します。この際、aptkit.aspxが開封者情報メールを送信できる状態になっていると、生成する文書ファイルの数だけメール送信が発生することになります。

短時間で大量のメール送信が発生すると、SMTPサーバ側でSPAMメールを送信しているとみなされてアカウントがロックアウトされてしまうなどの弊害が生じることがありますので、Word文書の一括作成をする際には、一時的にaptkit.aspxへのアクセスができないようにしておくなど、メール送信が発生しないようにした上で作業を行うようにして下さい。

ユーザー毎にキーワードを変えてWord文書ファイルを作成するため、生成するWord文書は訓練実施対象となるユーザの数だけ生成することになります。

②生成したWord文書ファイルを添付した訓練メールの送信

ユーザ毎にapps=xxxxのxxxxの部分を変えたWord文書ファイルを、各ユーザー宛の訓練メールに添付してメールを送付します。
ユーザ毎に添付ファイルを変えてメールを送信する作業を手作業で行うのは大変であるので、キットではこの作業を一括して行うためのツールとして、「メール一括送付ツール」を付属しています。このツールを用いることにより、ユーザ毎に添付するファイルを変えながら、訓練メールを一括送付することができます。

1 標的型攻撃メール対応訓練実施キット		
2 標的型訓練用メール一括作成・送付ツール（SMTP利用版）		
3 本ツールは、「送信先リスト」シートに記載されたアドレスに送付するメールを一括で作成・送付するツールです。		
4 以下の各項目を設定し、「メールを作成・送信する」ボタンを押すと、SMTPサーバと通信を行い、メールの一括送信を行います。		
5	送信先リストに対してメールを送る	
6	テストメールを送信する	
7		
項目名	設定内容	説明
SMTPサーバのホスト名		メールを送信するSMTPサーバのホスト名を設定します なお、TLS接続を必須とするSMTPサーバは本ツールではご利用いただけません。

※メール一括送信ツールの使い方については、
ツールに付属の使い方の説明を参照願います。

【Word文書一括生成ツールと、メール一括送付ツールとの関係】

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
送付先アドレス	送付先氏名	敬称設定	送信結果	添付するファイルのパス	メールに添付するファイル名	メールに記載するURL	実際にアクセスするURL	ユーザ特定用キーワード	不正アクセス防止用キーワード
hoge@kunrenkit.jp	山田太郎	設定しない		c:\temp\wordtest\test01.docx	保険料改定のお知らせ.docx				

送付先のアドレスを
指定します。

メールに添付されるファイル名を指定します。
メール一括送付ツールでは、E列に記載されたファイルのコピーを作成し、
F列に記載されたファイル名にリネームしてメールに添付します。
これにより、訓練メールに添付されているファイル名は同じだが、添付されているファイルの
中身はユーザ毎に異なる。ということを実現することができます。

	訓練対象ユーザ名	特定用キーワード	作成したWordファイルの保存先ファイル名
1			
2	山田太郎	user01	test01
3	鈴木次郎	user02	test02
4	山本三郎	user03	test03

URLリンククリック型の訓練実施方法

URLリンククリック型の訓練の訓練を実施するには、「http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kwd=pass」形式のURLを記述した訓練メールを送付する形で実施します。

ユーザ毎にuser=xxxxのxxxxの部分を変えたURLリンクを記載したメールを送信する作業を手作業で行うのは大変であるので、キットではこの作業を一括して行うためのツールとして、「メール一括送付ツール」を付属しています。このツールを用いることにより、ユーザ毎にURLリンクを変えながら、訓練メールを一括送付することができます。

1 標的型攻撃メール対応訓練実施キット		
2 標的型訓練用メール一括作成・送付ツール（SMTP利用版）		
3 本ツールは、「送信先リスト」シートに記載されたアドレスに送付するメールを一括で作成・送付するツールです。		
4 以下の各項目を設定し、「メールを作成・送信する」ボタンを押すと、SMTPサーバと通信を行い、メールの一括送信を行います。		
5 【設定】	送信先リストに対してメールを送る	テストメールを送信する
6 項目名	設定内容	説明
7 SMTPサーバのホスト名		メールを送信するSMTPサーバのホスト名を設定します なお、TLS接続を必須とするSMTPサーバは本ツールではご利用いただけません。

※メール一括送信ツールの使い方については、
ツールに付属の使い方の説明を参照願います。

【URLリンクの記述と、メール一括送付ツールとの関係】

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
2	送付先アドレス	送付先氏名	敬称設定	送信結果	添付するファイルのパス	メールに添付するファイル名	メールに記載するURL	実際にアクセスするURL	ユーザ特定用キーワード	不正アクセス防止用キーワード
3	yamada@hoge.hoge.jp	山田太郎	設定しない		c:\temp\wordtest\user001.docx	保険料改定のお知らせ.docx	http://hoge.co.jp/oshirase.html	http://hoge.com/aptkit.aspx	user=user001	kwd=pass
4										

送付先のアドレスを指定します。

ファイル添付を併用すると、Word文書ファイル添付型や、exe実行ファイル添付型の訓練と、URLリンククリック型の訓練をミックスした形式での訓練を実施することができます。

メール本文中に記載するURLを指定します。
訓練メールの送信形式がHTML形式である場合は、G列に記載したURLが、メール本文に記載されているURLとして、ユーザーには見える形になります。
メールの送信形式がテキスト形式である場合は、G列の記載は無視され、H列の記載が使われます。

user=xxxxの部分に記載します。

kwd=passの部分に記載します。

リンククリックにて実際にアクセスすることになるURLを指定します。
ここで指定するURLには、パラメータ文字列は記載しません。

実際のURLリンク先を隠ぺいする方法

URLリンククリック型の訓練で用いる「http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kwd=pass」形式のURLを訓練メールに記載したのでは、メールを見る人によっては、このURLを見ることで、訓練であるとすぐに気づかれてしまう懸念が考えられます。

HTML形式のメールを用いることで、見かけ上のURLを変えることはできますが、URLにマウスオーバーすると、実際にアクセスする先のURLがわかってしまうため、実際のURLリンク先を隠ぺいするための方法として、短縮URLサービスを使うという方法があります。

キットでは、「http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kwd=pass」形式のURLを、Googleが提供する短縮URLサービスのURLである、http://goo.gl/～の形式に一括変換する「短縮URL一括作成ツール」が付属しています。

A	B
1	標的型攻撃メール対応訓練実施キット
2	goo.gl用 短縮URL一括作成ツール 短縮URLを一括作成する
3	本ツールは、Googleが提供する短縮URLサービスgoo.glを利用して、実際のURLを短縮されたURLに一括変換するツールです。 短縮URLを使うと、実際にアクセスすることになるURLの代わりに、短縮URLをメール本文中に記載すればよいので、訓練を受けるユーザ側に、訓練で使用しているURLを知られにくくなるという利点があります。 但し、ユーザのパソコンからgoo.glのサーバにアクセスが発生することになるため、インターネットに接続できる環境でなければ、短縮URLを利用することはできません。 また、本ツールを利用するには、Google APIキーの情報をB4セルに設定する必要があります。Google APIキーをお持ちでない場合は、「APIキーの取得と有効化」のシートを参照して、APIキー情報の取得と、APIの有効化を行ってください。
4	Google APIキー
5	【本ツール利用に際しての注意事項】 本ツールを利用して短縮URLを作成すると、短縮URL生成時に、実際のURLへのアクセスが発生します。 このため、短縮化したいURLにアクセスすると、開封者情報のメールが送信されるようになっている場合は、短縮化するURLの数だけ、開封者情報が送付されてくることになってしまいますので、短縮URL生成時は、実際のURLにアクセスが発生しても、開封者情報のメールが送付されないよう、Webサーバ側のプログラム設定において、不正アクセス用のパスワードを一時的に別なものに設定した上で作業を行うようにして下さい。
6	A8セルから下に向かって、短縮化したいURL（kwd=xxxなどのパラメータも含む完全なURL）を1セルに1つずつ記載して下さい。 記載が完了したら、「短縮URLを一括作成する」ボタンを押すと、右側のB列に、短縮化されたURLが出力されます。
7	短縮化したいURL（?から後ろのパラメータ部分も含みます） 短縮URL
8	http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?user=user001&kwd=pass
9	http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?user=user002&kwd=pass
10	http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?user=user003&kwd=pass
11	http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?user=user004&kwd=pass
12	http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?user=user005&kwd=pass
13	

※短縮URL利用時の注意事項

短縮URLは、実際のURLにリダイレクトするサービスであるため、短縮URLが使えるのは、インターネットに接続できる環境のみとなります。

インターネットに接続できない環境下で訓練を実施する場合は、短縮URLをクリックしてもgoo.glのサーバにアクセスすることができず、リダイレクトができないため、実際のURLにアクセスさせることができませんのでご注意ください。

短縮URLを作成したいURLを記述します。

その他注意事項

SSLによる接続について

Webサーバーへの接続について、SSLによる接続を行いたいというご要望をいただくことがあります。
この場合、正式な証明書を用いてのSSL接続であれば問題はありませんが、自己証明書によるSSL接続はお使いいただけません。
自己証明書によるSSL接続では、SSL接続を行うに際して、接続を継続するかどうかのダイアログが表示されることになるため、接続をキャンセルされると aptkit.aspx へのアクセスが発生せず、開封したことを記録することができなくなってしまうためです。

認証プロキシが設置されている環境について

Webサイトへのアクセスに際しては認証プロキシを経由して行う環境となっていて、Webサイトにアクセスするかどうかを尋ねるダイアログを表示するようになっている環境の場合も、自己証明書によるSSL接続と同様、接続をキャンセルされると、aptkit.aspx へのアクセスが発生しないことになります。

セキュリティ対策ソフトによっては、警告が表示されるなどの動作となる場合があります

セキュリティ対策ソフトによっては、プログラムがWebサイトにアクセスを行うに際して警告を表示するようになっているものがあります。
これはセキュリティ対策ソフトが外部との通信を監視していることによって発生するもので、警告が表示されないようにすることはできません。

警告が表示されないようにしたいという気持ちはよくわかりますが、**警告が表示されることの意味について、訓練を受ける側が正しく理解しているかどうか**はとても重要なことです。警告の意味を正しく理解できていないがために、警告を無視して実行を継続してしまう人がいれば、それは組織にとって**人的なセキュリティホール**となってしまいますので、警告が表示されることを前提に訓練を実施し、警告が表示されても無視して実行を継続してしまう人がいるかどうかを確認することも重要なポイントです。